

第1回王寺駅周辺再整備推進会議を開催しました（令和2年11月25日）

王寺町では、平成30年5月に策定した「王寺駅周辺地区まちづくり基本構想」に基づき、駅北エリアについては、防災機能の強化及び魅力の向上、駅南エリアについては、民間活力を活かした拠点機能の集約・向上など、目指すべきまちの姿の実現に向けた検討を進めています。

これまでの取り組みとして、令和元年度に「久度地区（駅北エリア）まちづくりワークショップ」を開催し、地域が思い描く将来像をまちづくりビジョンとして取りまとめました。

令和2年3月には、有識者・地元代表者・交通事業者・行政関係者等で構成する「王寺駅周辺再整備推進会議」を立ち上げ、第1回会議を令和2年11月25日に開催しました。

開会に先立ち、平井町長は、王寺駅周辺はポテンシャルが高いエリアである一方、駅北エリアは狭あい道路や水害対策など防災上の課題があり、その課題解消と併せて新たなまちのデザインを描いていきたいと述べました。



あいさつをする平井町長

会議の内容

事務局から、王寺駅周辺の現状と課題及びこれまでのまちづくりの取り組みを説明した後、駅北エリアのまちづくりについて参加者に意見を求めました。

駅北エリアに対する主な意見

<課題について>

- ・ 利便性が良い場所であり、商業地域で様々な建物を建てることのできる一方、道路が狭あいインフラが整っておらず空き家・空き地が多い。
- ・ 駐車場が多いが、空き家が解体された後そのまま駐車場になっている場合が多い。小規模な駐車場が増えている。
- ・ 地区の住民は、水害に対する不安が根底にあり、不安を解決してほしい。

<魅力の向上について>

- ・ 歩行者用の橋（若草橋）は自転車と歩行者が通りやすいようにすれば、魅力を引き出せるのではないか。
- ・ 大和川は自然と触れ合える場所であり、大和川ふれあい広場はこの地区の強みだと思うので、最大限活用していくべき。

<まちづくりについて>

- ・ にぎわいをどう形成していくか、そこに住む人が住み続けたいくなるような町にしていくことが求められる。
- ・ にぎわいのあるところに人は集まってくるし、にぎわいのある場所に人は住みたいと思う。
- ・ 新たなマンションができると、一時的に人口は増えるが、そこににぎわいは生まれない。マンションが乱立しないよう規制誘導を議論し、まちのビジョンを作っていく必要がある。
- ・ 公園があってマルシェなどのイベントが定期的に行われれば、子育て世代の母親から小さなコミュニティが生まれ、それが大きなコミュニティになっていく。
- ・ 王寺町周辺の住民は行政区域に縛られた生活はしていない。広域的な視点でまちづくりを考えていかなければならない。

これまでの取組及び今後のプロセス

奈良県とまちづくりに関する包括協定締結
(平成28年)

王寺駅周辺地区まちづくり基本構想策定
(平成30年)

駅北エリアの検討

久度地区まちづくりワークショップ
(令和元年)

王寺駅周辺再整備推進会議
(令和2年～)

<検討項目(予定)>

- ・ 駅北エリアのまちづくりの方向性
 - ・ 中央公民館の跡地活用、花緒街の活性化、道路ネットワーク形成
 - ・ 事業手法、事業スケジュール等
- ※令和3年度中に駅北エリアの計画を取りまとめる予定

久度地区分科会
(令和2年～)

駅南エリアの検討

王寺駅周辺地区まちづくり基本計画策定